

A.R. ラフマーン

インド / 音楽

A. R. RAHMAN

From the Heart ~A.R.ラフマーンの音楽世界~

■開催日/2016年9月17日(土) 17:00~19:00

■会場/アクロス福岡地下2F イベントホール

■参加者/600人

〈第1部 対談〉

アジアと西洋、伝統と現代を融合し
人々の心を打つ音楽をこれからも

●対談者

サラーム海上

(音楽評論家、作家、DJ)



●コーディネーター

石坂 健治

(日本映画大学教授、東京国際映画祭
アジア部門ディレクター)

冒頭、石坂健治氏がラフマーン氏の功績を紹介し、「映画音楽の粋を超えた、ベートーベンやビートルズに比肩するアーティストである」と氏の音楽性と実績を称えました。

対談では、サラーム海上氏がラフマーン氏のプロとしての30年を写真や映像で振り返りながら、氏に質問を投げかけていきます。

◇独自の音楽スタイルをどのように確立したのか⇒「インドの伝統音楽と西洋のロック音楽を融合させて、自分たちのような若い世代の感性に合う音楽をつくらうと思った。」

◇映画音楽作曲へのアプローチ方法について⇒「映像を観ているいろいろな考えを高めていき、自らの創造力を含めてストーリーに反映させている。」

◇宗教歌謡カワラーへの思いについて⇒「先進的で忘れてはいけない心。聴くと元気が出て非常に心が高揚する。私の音楽はヌスラット・ファテアリー・ハーン氏から始まった。」

対談の内容は多岐にわたり、聴衆はサラーム氏の質問に丁寧に答えるラフマーン氏の一言一言に熱心に耳を傾けていました。



〈第2部 ライブ演奏〉

出演 ピアノ:A.R.ラフマーン、シタール:アサド・カーン(ASAD KHAN)、
ベース:モヒニー・デイ(MOHINI DEY)、
ヴォーカル:ジョニータ・ガンディ(JONITA GANDHI)

- 曲目 1.「Mausam & Escape (モーサム&エスケープ)」
映画『スラムドッグ\$ミリオネア』より
2.「Naane Varugiraen」 映画『OKダージン』より
3.「Agar Tum Saath Ho (あなたがいてくれたら)」
映画『Tamasha (見世物)』より
4.「Tu Hi Re (あなただけが)」 映画『ボンベイ』より
5.「Latika's Theme (ラティカのテーマ)」
映画『スラムドッグ\$ミリオネア』より

ラフマーン氏をはじめとするアーティストの熱演に、演奏終了後の会場は歓声とスタンディングオベーションに沸きました。



学校訪問

■実施日/9月15日(木) 10:00~11:00

■会場/福岡第一高等学校(音楽科)

全校生徒の歓迎を受けた後、音楽科生徒の合唱に出迎えられたラフマーン氏。生徒の前に立ち、挨拶の後すぐに「私に質問はありませんか」と話しかけます。「日本のどんなところが好きですか?」との質問に、「黒澤明監督の大ファンで、ホラー映画も大好き。音楽では坂本龍一さんを尊敬している」「日本は伝統文化やアイデンティティーを保持する一方で、世界のあらゆる文化の要素をうまく取り入れている点が素晴らしい」と答えました。

映画音楽の作曲に関する質問には、「脚本を読み込んでしっかりと頭に入れ、映像やセリフで表現されない感情を音楽で表現するのだ」と説明しました。

続いてラフマーン氏はピアノに向かい、インド音楽を5つのモードで演奏。聴いてどういう気分になるか生徒たちに尋ね、生徒の回答に対して一つ一つ丁寧にコメントを返しました。

最後に「皆さんの素晴らしい成功を祈っている。成功をつかむため頑張ってください」と生徒たちを激励しました。

